

総論：新しい国際環境下における日 ASEAN 協力

佐橋 亮

東京大学東洋文化研究所准教授

1. 大国政治の時代と ASEAN

(ア) ASEAN におけるアメリカ外交の理解

- ① 同盟ネットワークの重層化
- ② 人権、民主主義を中心にした価値外交
- ③ ソフトな保護主義への対応

(イ) ASEAN 中心性、および地域秩序が分断されかねないことへの危惧

- ① QUAD、AUKUS
- ② IPEF

(ウ) ASEAN 外交における戦略的ヘッジ

2. 日本と ASEAN

(ア) パワーバランスの変化

- ① 日本と中国
- ② 日本と ASEAN

(イ) ASEAN が認識する日本の秩序形成における役割

- ① アメリカの同盟国
 - 1. 米・日米のパワーを全面的に否定しているわけではない
- ② 欧米諸国と異なりアジア外交の機微を理解
 - 1. 価値外交、内政干渉への警戒
- ③ ASEAN にとっての戦略的ヘッジを可能にする存在であれば…
 - 1. それは日本がバランスングを行い得ることを前提にしている
 - 2. 日本以外に ASEAN 諸国が頼れる地域大国が未だ不在であるのは事実

3. 日 ASEAN における具体的取り組み

(ア) 政治・外交

- ① 日本側の発信として、ASEAN が日本に果たしている貢献も重視

- ② 包摂的な地域秩序ビジョン、日本のアジア政策の複合的性格を強調
 - 1. QUAD 等のミニラテラリズムと ASEAN の役割分担、後者の中心性を確認
- ③ いわゆる欧米型とは異なりつつも、法整備、民主主義支援等を模索
 - 1. 自律性を尊重し、育成する姿勢を堅持。
- ④ ミャンマー対応に関して ASEAN の役割を支援
- ⑤ メコン河流域開発などへの支援

(イ) 安全保障

- ① 南シナ海における力による一方的な現状変更を生じさせず、ルールと規範による秩序形成の重要性を強調
- ② NTS 分野だけでなく宇宙、および防衛装備品・技術の移転によっても能力構築、技術移転を図る

(ウ) 経済安全保障

- ① 技術流出防止や輸出管理体制強化のための取り組み支援を発展
- ② 高度人材の移動を促進

(エ) 知的交流

- ① 日本と ASEAN 政策コミュニティとの新しい土台作り